

1. はじめに

毎年、庭園文化研究分科会の庭園視察会開催の案内を見るたび、参加してみたいと思いつつながら、断念していました。今年も、スケジュールを確認すると、職場旅行の日とバッティング。隣町での開催ということで、職場旅行を断り、初めて参加させていただきました。

庭園に関する専門的知識に乏しいため、今回の視察を通じて感じたことを、述べさせていただきます。

2. 津和野の町屋の庭

津和野は近世以来の古い街並みが残っています。そこで、歴史文化基本構想の策定に向けた取り組みの過程の中で文化材の総合的な把握を行っており、庭園の調査も進められています。

そのような中、国の登録記念物（名勝地）に登録された4つの庭園を視察させていただけることとなった。庭の特徴としては、旧津和野藩で幕末から明治にかけて、財力を蓄えた資産家層が自邸に築造した町屋の庭園である。

① 津和野藩家老屋敷跡にある

田中氏の庭園

池が配置された池泉式庭園である。田中氏が長年にわたって維持されており、現在は、沙羅の木 松韻亭となっている。食事をしながら庭を眺めることができる。築山を築いて、立石や松、モミジを配し、四季折々の景色を鑑賞できる。



② 酒屋の財間氏の庭園



庭園は、表門の内側にある前庭と主屋に東面する主庭園から成る。

左記の写真は主庭で、作庭当時は、青野山を借景として造られており、景石、飛石や敷石を主体とした構成になっている。

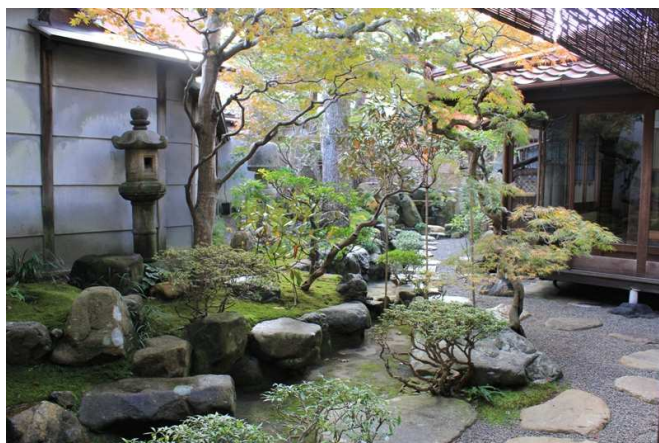
前庭は燈籠及びマツの廻りに巨石の石組が見られる。

③ 呉服商さゝや 岡崎氏の庭園

山口県を代表する溪谷の一つである、“長門峡”をイメージして作庭されているようである。

近くの川から水を引き込んだ池泉庭園で、敷地の形状を活かした空間に、「打ち水」がしてあり、しっとりした風情がある。

主屋の座敷からの鑑賞も良いが、池泉の周囲を回遊することも可能である。



④ 香油などを扱った椿氏の庭園



建物、厠につづく濡れ縁に囲まれた小規模な坪庭で、狭隘な空間に飛石・燈籠・手水鉢・つくばいなどを配している。

灯籠、飛石に対して苔の緑が絵に成る。

3. 視察を終えて

今回の視察を通じて、魅力的な観光資源に驚いている。しかし、町屋の庭はそのほとんどが生活空間のなかにある。

それゆえに、オープンガーデンなどと異なり、住んでいる生活の中に踏み込んでいく感じがあり、一般公開は、難しいと感じた。

しかし、登録文化財として維持するためには、多大な経費が必要となる。次世代に残していくためにも、文化財としての活用方法を検討したい。上記の庭園は、津和野の観光名所であるお堀のすぐ近く隣接する位置にある。観光客は、お堀周辺を短時間で見てまわり、次の観光地へ急ぐ。もっと、ゆったりと津和野のまちの良さを感じてもらおう試みの一つとして活用できたらと思う。月 1 回程度の鑑賞会など、住人に負担にならないような仕組みなどを築き、町屋の庭の連携を図ることはできないか。

今後、歴史を活かしたまちづくりの中で、町屋の庭の活かし方についても議論もされていくと思われるが、津和野の名園である堀庭園も含め、保存・活用していくことが重要となってくる。